

科目名	リスクマネジメント Risk Management		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・土・集中	-	-	-
担当教員名	大森 英直	e - mail		

<講義の概要と目的>

経営においては攻めだけでなく守りも重要ですが、その視点が欠落していたため、事業継続が困難となった組織の事例は多数あります。よって、経営者にはリスクマネジメントの知識・理論の習得は不可欠であると考えます。

リスクマネジメントの国際標準規格である ISO31000 のフレームワークを、ベンチャー企業や中小企業でも活用できるように分かりやすく解説し、講義内でリスクマネジメントの実践マニュアルが策定できるよう進めていきます。

さらに、リスクマネジメントとマーケティングの理論を融合し、リスクマネジメントが企業の信頼性の向上や売上にとどのようにつながっていくのかまで理解を深めていきます。

<到達目標>

リスクマネジメント理論・マネジメント理論を修得し、実務においても実践できるようにする。

<アクティブ・ラーニング要素>

実際起こった企業の事故・不祥事例などをテーマに、毎回授業内でみなさんとアクティブ・ラーニングを行い、“対話（dialog）”というコミュニケーションを修得していただきます。

<ゲストスピーカー招聘>

15 回目の最終回に、リスクマネジメントを実践している企業経営者から、リスクマネジメントの財務インパクト（特に売上高に対して）や従業員のモチベーションにどのような影響を与えているのかを講義いただく予定です。

<講義計画>
1 回目：リスクとリスクマネジメントの理解
・要点：経営におけるリスクとは何か、リスクマネジメントがなぜ必要となるのかを考える
2 回目：リスクコミュニケーションとリスク教育
・要点：経営におけるリスクコミュニケーションとリスク教育の重要性について
3 回目：リスク教育演習
・要点：リスク教育による対話（dialog）の習得
4 回目：国際標準規格 ISO31000 の概要、リスクマネジメント方針の策定
・要点：ISO310000 の概要の理解、リスクマネジメント方針、組織の状況の理解（SWOT 分析）
5 回目：リスクの発見
・要点：リスクの洗い出し、リスクの特定およびリスク分類
6 回目：リスクの算定、リスクマップ
・要点：リスクの算定、リスクマップの策定
7 回目：ケーススタディ① 大規模食中毒事件
・要点：企業の事故・不祥事例をテーマにディスカッションを行う
8 回目：リスク対応（1）
・要点：重要リスクの被害想定シナリオを作成

9 回目：リスク対応（2） ・要点：重要リスクの目標設定、対策の策定 10 回目：リスク対応（3） ・要点：重要リスクのリスクマネジメントプログラムの策定、モニタリング及びレビュー 11 回目：ケーススタディ② 目薬異物混入事件 ・要点：企業の事故・不祥事事例をテーマにディスカッションを行う 12 回目：危機管理 ・要点：危機管理とインシデントコマンドシステム（ICS）の概要、危機対応・広報対応のポイント 13 回目：自然災害と BCP（事業継続計画）、災害や事故・不祥事による財務インパクト ・要点：BCP（事業継続計画）の重要性、BCP 策定概要、演習方法（ディスカッション）、リスクファイナンス 14 回目：リスクマネジメントと CSR、コンプライアンスの関係性 ・要点：CSR、コンプライアンス 15 回目：まとめ ・要点：B2B マーケティング、リスクマネジメント活動発信による顧客への認知、信頼性向上について
<講義の進め方> 担当教員作成の資料を中心に講義、ディスカッションを行います。
<事前事後学修内容> 講義 3 回目、7 回目、11 回目終了後に課題を出しますので、議論が出来るように課題（レポート）を行ってください。 <予習・復習時間> 各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をします。マスコミで報道される事件・事故について情報収集し、普段からリスク感性を高めておいてください。
<教科書及び教材> ・東京海上日動リスクコンサルティング株式会社（2012）「図解入門ビジネス最新リスクマネジメントがよ〜くわかる本第二版」、秀和システム 2,200 円＋税 ・金井壽宏（2006）「働くみんなのモチベーション論」、NTT 出版 1,800 円＋税
<参考書> ・加藤晃（2018）「CFO 視点で考えるリスクファイナンス」、保険毎日新聞社 2,700 円＋税 ・危機管理研究会（2012）「ケースブック あなたの組織を守る危機管理」、ぎょうせい 4,762 円＋税
<成績評価方法> 欠席 6 回以上は成績評価しない。 授業貢献度 50%＋課題レポート（3 回の小課題 5%＋期末課題（最終レポート）45%）50%で評価します。 <課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法> 課題レポートについては、担当教員から毎回コメントを付記してフィードバックします。

＜履修条件＞ 特になし
＜ディプロマポリシーとの関連＞ アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当
＜録画映像の視聴＞ 可
＜オフィスアワー＞ 非常勤ですので、メールで常時受け付けます。
＜その他＞ ディスカッションでは、積極的姿勢と思考された意見・発想を評価します。